

石巻復興 NEWS

石巻専修大学 経営学部 丸岡ゼミ 平成 24 年 1 月 31 日発行 第 7 号

津波を乗り越えた サン・ファン・パウティスタ号

「サン・ファン・パウティスタ号は、大津波の直撃に遭いながらも奇跡的に流されず無事に残りました。そのことが、被災者の方の大きな希望になったと感じています。」

こう語るのは、宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)の職員である隅田さんです。

サン・ファン館とは、1613 年(慶長 18 年)に仙台藩主伊達政宗の命でヨーロッパ(スペイン、メキシコ)へと渡った支倉常長ら慶長遣欧使節の歴史や、大航海時代の帆船文化などを学ぶことができる博物館です。中には、使節が太平洋を往復した木造様式帆船(サン・ファン・パウティスタ号)の復元船も展示されております。サン・ファン・パウティスタ号は日本で初めて建造されたガレオン船としても有名です。

サン・ファン館は入り口が展望棟になっており、慶長使節が派遣された時代や使節の足跡をロボットやパネルで説明する慶長使節展示室、サン・ファン・パウティスタ号での航海を約 20 分かけて疑似体験できるシミュレーションシアター、サン・ファン・パウティスタ号に関する資料などが展示してある企画展示室があります。

そこを少し降りて行くとドッグ棟があります。ここは廊下が全てガラス張りになっており、外のサン・ファン・パウティスタ号を様々な角度から見る事ができるよう東ウィングと西ウィングに分かれています。そして、東ウィングでは帆船の技術を、西ウィングでは帆船の文化を展示しています。

東日本大震災によるサン・ファン館の地震被害はほとんどありませんでした。ですが、海沿いの施設のため津波被害が大きかったそうです。10 メートルを超える津波が押し寄せ、サン・ファン・パウティスタ号は一部破損しました。この船は、震災の津波ではほとんど破損しませんでしたでしたが、4 月 27 日の台風の影響でメインマストとフォアマストが折れてしまいました。しかし、現在マストはどちらも直っており震災前の凛々しい姿に戻っています。

ドック棟展示室に至っては天井付近まで津波が来たためガラスなどが全て割れてしまい、展示物の流失、流れ着いた瓦礫が室内に散乱するなどまさに壊滅状態になったそうです。しかし、ドッグ棟よりも比較的上部の離れた場所にあった展望棟までは、津波が来なかったことや事務室があることから近隣の住民の避難所として提供されたそうです。主にセミナールーム、会議室及び

レストランを開放し、職員や避難者合わせて約 70 人が生活していました。

その他にも、門脇小学校などから被災資料が運び込まれ、資料の洗浄及び一時保管の場として文化財レスキューの活動拠点、長野県から来たボランティア団体の方々にも隣接するサン・ファンパークの一部を生活スペースとして提供しました。避難していた方々は 8 月 10 日に転居したそうですが、これに伴いサン・ファン館は今も休館中となっております。

震災前、サン・ファン館では毎年 5 月ごろ、『サン・ファン祭り』というイベントが開催されていきました。2010 年、私たちはどのような人達が祭りに来ているかを調べるため、アンケート調査を行いました。調査の結果としては、地元の方が数多く来場していることがわかりました。特に若い世代の二人連れや家族連れが楽しみに訪れていました。高校生や大学生も地元の方々と混じってお店を出しており、大変活気のあるお祭りであることがわかりました。

震災のあった去年、この お祭りは中止になってしまいましたが、他のイベントは少しずつ行われてきました。8 月 20 日、21 日には『青少年のための科学の祭典 2011～未来への道標～ 石巻大会』へ会場を提供しました。これは 10 年続いている催しで、同時に、専修大学が創立 130 周年を記念し制作した映画「学校をつくろう」の上映会も行われました。また例年とは異なり、防災やボランティアに関連したコーナーも設けられました。

10 月 29 日にはサン・ファン・パウティスタ号出帆記念イベントとして『サン・ファン復興祭り』が開催されました。内容としてはうどんの無料試食、新米や野菜の無料配布、伊達武将隊のパフォーマンスなどのステージイベントも行われました。さらに、宮城県とスペイン、メキシコが交流を始めて 400 年の節目を記念し、植樹などのセレモニーも催されました。11 月 26 日には石巻市もロケ地となった映画「エクレールお菓子放浪記」の無料上映会も行われました。

現在、サン・ファン館は休館中ですが、イベント開催は可能になっています。一日も早い通常営業を心より願っています。

(越中岳晴、西條貴志、佐藤美紀、菅原悠太郎、永田清龍、松原明広)



奇跡に残ったサン・ファン・パウティスタ号



歩さん
←とヒロ兄い→



高橋歩トークライブ

去る12月18日、NPO法人「ON THE ROAD」代表の高橋歩（あゆむ）さんのトークライブが石巻専修大学で行われました。前半は歩さんの半生の紹介、後半は石巻への復興策の提案が行われました。

歩さんはいろいろな挑戦に成功してきた「自由人」です。ベストセラー『毎日が冒険』の著者でもあります。

20歳のころ、トム・クルーズ主演の映画『カクテル』を見て、「好きなことをして食べていきたい」と思いバーを始めようと仲間を誘いました。友人からお金を借りて千葉県千葉駅の近くに「ROCKWELL'S」を開業。

初めは、友人が来店してくれましたが1ヵ月後には誰も来なくなり売り上げが激減。しかし、自分たちが本当に格好良いと思える店づくりに切り替えたところ集客に成功し、以降、4店舗にまで発展しました。

また、自給自足の村に憧れから、沖縄へ行き、人と自然が共生できるエコ・ヴィレッジの「ビーチロックビレッジ」を創設しました。

その一方、歩さんは、インドやジャマイカでお金の無い人が通える学校を造り、運営資金のためホテル経営をしています。本当に多彩な経歴です。

東日本大震災後去年の3月から、石巻市でも、赤いビブスで被災者支援に取り組んでいます。海外の活動と同様に、困っている人を助けたいという思いを感じます。

ライブでは、このNPOの現宮城リーダー魚谷浩さん（ヒロ兄い）が石巻元気商店街や店舗再生について話しました。ヒロ兄いは兵庫県神戸市生まれで、以前は飲食店をチェーン展開する企業に勤めていました。彼は、4月16日に「ON THE ROAD」に参加し、石巻で瓦礫撤去を開始、5月初めに店舗再生のプロジェクトに着手。

支援活動の中で、ご自身の経験のある飲食店の再開を手伝えないかと考えました。結果、「食べ物がおいしい」「史跡や自然を満喫できる」というまちの特徴を発信するために、石巻市内の吉野町に石巻元気商店街を設立することにしました。

商店街には、農産物、海産物、調味料、雑貨を購入できる市場、ダンスや歌を発表できる地域コミュニティスペース、様々な人と出会え、交流が深められるゲストハウスを設ける予定となっております。

歩さんは「本当に石巻を盛り上げたい人たちと中心に家賃は取らず開業を手伝いたい」と仰っていました。

この商店街や店舗再生プロジェクトで石巻圏外の人と地域住民との交流が進むことを願います。

（西條貴士）

震災から10ヶ月後の成人式

東日本大震災が起きてから約10ヶ月となった1月8日、全国各地で成人式が行われ、新しいスーツ晴れ着に身を包んだ新成人が多数出席しました。震災が起きたのは卒業シーズンであったため、被災地では、卒業式が行えないという学校がありましたが、成人式は無事に石巻市の各地区でも行われました。

石巻地区の成人式は、去年まで会場だった石巻市民会館が津波の被害を受けたため、石巻専修大学の体育館で行われました。式では、亀山市長が新成人へのお祝いの言葉に「皆さんこそが石巻市の明日であり、復興の希望。石巻に生まれ育ったことに誇りを持ち、人の痛みを分かる優しい人であり続けてほしい」と語り新成人の代表者は「自分たちが復興で出来ることを頑張っていきます」と誓いの言葉を述べました。

今年の石巻地区の成人式のテーマは「道～踏み出す一歩が創る出愛い～」でした。「道」には、過去の道これからの道、～踏み出す一歩が創る出愛い～には、これまで出会った人・これから出会う人たち全員に様々な愛を持って行こうという意味が込められていて、出会いを出愛いという言葉にして表現します。

成人式は、河南地区・北上地区・牡鹿地区・河北地区ではそれぞれ8日に、桃生地区では少し早く5日に式が行われました。東日本大震災の津波で壊滅的な被害に遭った雄勝地区でも行われ、46人の新成人が出席して再会を喜び合いました。雄勝地区も、例年会場であった会場が被災したため、支所仮庁舎のプレハブに紅白の幕を張って式が行われました。こちらの新成人の代表者は「地域の復興の力になれるよう努力していきたい」と、石巻市の代表者と同じ「復興」という言葉を込めて誓いの言葉を述べました。

私たちのゼミには仙台での成人式に参加した仲間が何人かいました。会場で久しぶりに会った友人からかけられたのは、「生きていたか」「無事だったか」という言葉だったようです。石巻の大学に進学していることを知っている友人は、少なからず私たちの安否を心配してくれていたようです。成人式は、友人と震災の体験談を語り合う機会にもなりました。

震災の影響で、会場が変更になったり、自前の着物で式に臨めなかったりと、石巻市の新成人の方々にとっては辛い部分もあったと思います。ですが、自分が震災後初めて大学に来る時、バスの中から見る景色が大きく変わっていて、石巻はこれからどうなってしまうのだろうかというショックを受けたことを思い出すと、わずか10ヶ月で成人式を無事開催できるまでになったことは前進だと思います。自分も成人になったので、今までとは違った観点から、復興のために何かできることを探していきたいです。

（稲垣 雅也）

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

E-mail senshu-maruoka@inter7.jp